

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年 3月 1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4698200013
法人名	有限会社 岡村
事業所名	ひまわりのお家
所在地	鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦2384-10 (電話) 0997-42-2855
自己評価作成日	平成27年9月

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成27年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型特定施設(旧高専賃)と併設されており、屋久島町にただ一つの小規模多機能である。海と山とが一望できる東屋には桜の木が植えられ、レクリエーションや花見を楽しめる場として活躍している。利用者が自分のペースで通いや宿泊、訪問を利用できるように、家族・職員・看護師との連携を密にし利用計画を立て、家族の急病や台風などによる急な利用にも対応している。常時、訪問や見学を受け入れており、地域の住民とも親交を深め親しみやすい施設を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○施設は宮之浦港から車で5～6分の屋久島町の中心地に位置し、少し山手の広い敷地に「地域密着型特定施設」と併設されている。敷地内には東屋や菜園、庭石等が設置されホーム内もスペースに余裕のある平屋造りとなっている。近隣にストアー、ガソリンスタンド、学校施設があり、地域との交流も日常的に行われている。町唯一の小規模多機能としての地域住民のニーズに対応する為、行政・医療機関・福祉関係等と連携し、多様なサービスを提供している。

○管理者及び職員はサービス提供の姿勢として「いつも優しく明るい笑顔」を掲げて利用者の人格と個性を大切にケアに努めている。平成8年から積み上げてきた職員間や地域住民と信頼関係で利用者が増加し、職員も増員となり定着しており質の向上に繋げている。

○職員を育てる工夫として「スタッフ意見箱」の設置や日替わりでのリーダー・サブリーダーの役割分担、「安全保守委員会」「レクリエーション委員会」「生活改善委員会」「保健委員会」での全職員の主体的な活動を展開している。管理者を中心に職員のチームワークが優れ、一人ひとりが問題意識を持って日々の業務に従事している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念「私たちは利用者の皆様が住み慣れた地域で一人一人の生き方を大切にしながら暮らしていけるようお手伝いします。」をホールに貼り、いつでも見られるようにしている。又、目標として「いつも優しく明るい笑顔」を毎朝職員皆で声に出して言っている。	事業所理念をホール内に掲げ、朝礼・引き継ぎ・会議研修等で振り返りや確認をしている。また、具体的な行動目標として「いつも優しく明るい笑顔」をたてて常に唱和し、全職員が心にとめて日々の介護サービスに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に地域の祭りなどに参加している。保育園、託児所や学童保育の子供らに来てもらったり、職場体験学習等も積極的に受け入れている。	日常的に隣接するストアでの買い物やガソリンスタンドでは送迎時に挨拶や会話を交わしている。近隣の方も施設利用者についての理解があり、協力的で交流が出来ている。地域の祭りには積極的に参加しており、そこで旧知の方と再会する場面もあり、利用者は楽しみにしている。保育園や学校等の交流も盛んである。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	常時、地域の誰もが見学訪問できる。施設やケアマネージャーへの介護相談や包括からの相談もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>町や他事業所・家族からの意見を幅広く取り入れ、連携が取りやすくなっている。また、町への質問にもすぐ回答をもらえたり検討してもらえる機会が増えた。</p>	<p>会議は2ヶ月に1回定期的に開催され、利用者、家族、他事業所職員、民生委員、自治会長、行政等の参加があり、施設の利用状況、行事紹介、外部評価の報告等が行われている。避難訓練の報告では、貴重なご意見やアドバイスがあり、サービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>町の職員にはその都度、電話や運営推進会議で連絡を取り合い、毎月利用者名簿を送る事によって情報の共有を図っている。</p>	<p>毎回運営推進会議に出席して頂き、情報を常に交換している。町唯一の小規模多機能ホームとして、町から施設サービス利用等について相談を受けることも多く、要望等の受け入れに積極的に協力をしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>月に一回行われる全体会議の中で毎年一回は身体拘束の勉強会を行っている。玄関の施錠に関しては現状ロック解除すると無断外出にて利用者に危険が及ぶ可能性が高く、まだ解決に至っていない。</p>	<p>マニュアルを作成し、「安全保守委員会」を中心に職員会議や研修会で学習を行っている。日常のケアでも行動や言葉による拘束等、お互いに注意喚起し合っている。外出傾向のある利用者には、見守りの強化とともに落ち着くまで一緒にドライブや散歩に同行している。近隣の商店、住民の方にも協力を頂き、声掛けや見守り、事業所への連絡をお願いしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>月に一回行われる全体会議にて年に一回は虐待防止についての勉強会を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度についてのパンフレットを常時すぐ手に取れる場所に設置している。過去に町へ問い合わせた事あり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者と家族が理解・納得できるように話し合いには何度でも応じる。説明に対して納得頂けた場合、署名と捺印をお願いしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	送迎時家族から意見・要望をいただいたり、連絡ノートにて伝えられることが多い。苦情・要望報告書を利用してカンファレンスや会議にて改善点を話し合い、家族へ結果を報告して職員に周知を行っている。	「利用者と信頼関係を築く」をモットーに日常の会話、所作で利用者の要望等を汲み取るように努め、家族からは送迎時での会話や「連絡ノート」を活用して意見・要望を聞き取っている。例として、インフルエンザの予防接種の要望があり、協議し、全利用者・全職員の実施を行った。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	生活改善委員会職員専用の意見箱が設置されており、匿名で意見が可能。普段より管理者、ケアマネージャーと一緒に介護職員として働いており、相談や悩みが伝えやすくなっている。月一回の全体会議でも運営に関する職員の意見を聞いている。	職員会議や引き継ぎ、日常のケアの中で、職員の意見を聞いている。また、生活改善委員会の設置した「スタッフ意見箱」があり、ヒヤリハットや目にした良い行為、悪い行為等、個々の意見が活発に出され、それを元に話し合い、ケアの向上や改善に活用されている。管理者は相談や悩みには個別面談で対応し、休みの希望等、勤務体制も配慮し、働きやすい職場環境作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>研修や講習の文書を職員がみられる掲示板に貼りだし、職員が確認できるようにしている。勤務は前もって休み希望を聞き、出来るだけ希望に沿うように作っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格や勤続年数、能力によって処遇改善加算金を設けている。資格取得に積極的になれるように特別休暇があり、月に一回行われる全体会議では勉強会を実施。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所への訪問を実施。また、他事業所からの訪問も常時受け入れている。運営推進会議では他事業所の施設長から意見を求めたり、事例を聞くことができる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族が何に困っていて、どんな希望があるのか、よく話を聞き、どの職員が見てもわかりやすいようにアセスメントを念入りに作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の話をよく聞き、必要と思った時は再度訪問するなどして、納得・理解が得られるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望はもちろん、居住地や予算・生活リズムなど、色々な観点から見て他のサービスが良いのではないかと思われた時は一度勧めている。必要に応じて福祉用具の利用や訪問看護、訪問リハ等のサービス利用を組み込んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物たたみ等、利用者が出来ることは声かけして一緒に行ってもらっている。個人ファイルや日誌(申し送り)、カンファレンスを通して利用者個人の様子を把握できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が近くに住んでいる場合は利用者との接点がなくならないように、こちらが先にするのはなく利用者の用事は出来るだけ家族にお願いしている。敬老会、運動会には招待状を送っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が住んでいる地域の地区運動会や祭りに出かけて顔見知りや会話したり、常時面会や訪問を受け入れている。	利用開始時に面接をして、利用者・家族から生活歴や趣味嗜好、馴染みの関係等を聞き取り、アセスメント表にまとめて情報を職員で共有している。積極的に地域の祭りや行事に参加し、旧知の人との交流をもてるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ地域に住む利用者さんや、昔から知っている人同士が交流できるように席を近くにしている。近くの利用者が、この人が呼んでるよ。この人お茶まだよ。等と教えてくれる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移る場合、引き継ぎ時に本人や家族の希望やそれまでの生活など出来るだけ詳しく伝えるようにしている。希望があれば、その後も問い合わせや相談に応じて、他事業所と連絡を取り合っ対応するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や家族からの情報をケアマネージャーや職員がモニタリングやカンファレンスを通して記録、把握していく。本人希望は出来るだけ実行していくが、無理なときは家族に相談してしてもらうこともある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に出来るだけ詳細なアセスメントを作成し、引き継いでからも前の担当者や家族から話を聞きながらサービスを進めていく。普段の生活については家族との連絡帳や本人との会話などを通して把握している。申し送り等で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族との連絡帳で自宅での様子を把握し、事業所では排泄、水分、食事、バイタル等のチェックを行って家族も職員も利用者の状態を把握できるようになっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは職員でチームが作られ、年間を通して同じ利用者を担当している。カンファレンス会議が職員で月一回実施され担当者会議、家族・本人を通して介護計画が作成されている。	利用者の担当チームを作り、6ヶ月毎にモニタリングを行い、評価表を作ってサービス内容の見直しを行っている。介護計画は、本人、家族、主治医、職員の意見を参考に作成し、支援経過は居宅介護支援経過に細かく記録している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人ファイルでの特記事項、ヒヤリハット・事故、連絡ノート、苦情・要望報告書などの結果や変更等は内容によって、数日間申し送られ、職員間で共有出来るようになってきている。カンファレンス結果も職員が読んでサインする事で確実に共有できるように工夫している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>一律にこれはダメとするのではなく、利用者によって柔軟に出来る限り対応している。送迎時間、急な宿泊、好きな食べ物、飲み物の持ち込みなど。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>屋久島ならではの身近な自然を生かしてドライブや散歩に行って季節折々の花や木々、海川を楽しんでいる。役場支所や図書館などが近くにあり催し物にも参加しやすい。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医が本人の住む地域だった場合も本人の希望に沿って継続していく。自宅から病院に向かい、病院受診後に病院へ迎えに行くなど。家族の付添いが出来ない時は事業所の看護師や職員が付き添う場合もあり。</p>	<p>利用者の既往歴、現病歴等は利用開始時に把握しており、利用者・家族の希望に沿ってかかりつけ医を決めている。通院は家族が同伴しているが、単身者や家族の事情で難しい場合は職員が対応している。受診状況は記録し、家族へは連絡ノート、送迎時、電話等で報告をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師も介護職員も共に排せつ介助や入浴介助などを行い。日常的に看護師の仕事以外は共有できている。カンファレンスや申し送りを通して全職員が情報を共有している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中は定期的にケアマネや看護師が面会に行き本人の状態を確認し、SWや病院の看護師と情報を共有し、家族と経過やこれからの事を話し合いながら区分変更などの手続きを行うかなどの相談を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人と家族に終末期の希望を聞き取っている。緊急時対応の同意書をもらう際に緊急時には協力医療機関に連絡、適切な処置を取る旨を伝えている。独居の利用者が体調不良の際は訪問を追加したり、訪問看護に連絡して診てもらったり、ショートステイに切り替えたり等状況に応じて対応している。今の所自宅での看取り希望者なし。</p>	<p>利用開始時に事業所の方針について説明し、利用者・家族の理解を得ている。出来るだけ、利用者・家族の希望に応えたいと考え、日常のケアの中でも意見を聞き取る努力をしたり、職員のスキルアップのための研修の充実を図っている。医療機関との密な連携、家族間の意見の相違等が今後の課題であると考えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変(緊急)時や事故発生時のマニュアルを作り、全体会議で勉強会を行った。緊急時のマニュアルは送迎車にも乗せており、いざという時に役立つように工夫している。2年～3年に一回殆どの職員を対象に救命講習を実施している。</p>	/		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に二回災害や火事を想定した避難訓練が行われている。消防が参加しない自主訓練、抜打ち訓練等も随時実施。今年は救命講習も行われた。地震・津波を想定した地域の避難訓練では、消防と相談の上、予想していた以上に道が悪く災害の規模によっては事業所に留まった方が安全という結果になった。</p>	<p>「安全保守委員会」を中心に年2回の規定の災害避難訓練のほか、年3～4回の自主訓練を行っている。自主訓練では抜き打ちで行った場合の連絡時間、集合までの時間測定したり、断水停電の対処を考えたり、より実践に活かされるよう工夫している。災害に備えた備品・食料の備蓄も適切に整備されている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年に1回全体会議にて個人情報、プライバシー保護の勉強会を実施している。	「生活改善委員会」を中心に「個人情報保護マニュアル」「プライバシー保護マニュアル」を整備し、職員会議や研修会引継ぎ、日々のケアにおける振り返り等で確認している。特に排泄、入浴、居室の開閉、面接時のプライバシーについては言動に配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホールに居る職員だけでなく、事務所職員や清掃職員も利用者とのコミュニケーションを図り、普段言えないことも気楽に話せるような環境を作っている。相談や話したいことがあると事務所に通ってくる利用者もいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や場所、入浴の時間や間隔、買い物や外出など出来る限り対応している。外出などその日に対応できない場合は日を改めて計画している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	2か月毎に理容師が出張してくれている。白髪染めなども職員が手伝い、なじみの美容院などへの送迎も希望に応じて行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年に1回～2回バイキング形式の食事や外食とドライブを楽しむランチドライブを実施している。食事は好みや形状、量等個人に対応出来るようになっており、その都度食事伝票を提出して調整してもらっている。誕生日の誕生日会には利用者の好みや希望に応じて職員の手作りのお菓子が出来る。	食事は業者委託であるが、事業所内の厨房で作られ、利用者ごとの食事の形態や嗜好に細かく対応している。おやつは職員の手作りで工夫がなされ、誕生日会や花見、ソーメン流し、クリスマスなど月々の行事に合わせ変化のある食事が提供されている。東屋が設置してあり、おやつやお茶の時間に利用している。車イス利用者も一緒に参加ができ、楽しいひと時を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取に関しては、委託事業にて栄養士が献立を考えたものが出されている。食事量と水分量をチェック表にて一日の摂取量がわかるようになっており、食や水分摂取が進まない利用者には嫌いなものは違う物に代えてもらう、好きな物を用意して食べて頂く等の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後毎回口腔ケアとチェックが行われ、義歯を使用しているか、舌苔ブラシや歯間ブラシなど個人に合わせたケアが行われている。宿泊時には夜必ず入れ歯を洗浄液に浸けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて個々のリズムを掴み、失敗が極力ないようなトイレ誘導を心がけている。季節によって夜間はオムツにしている利用者もいる。	「トイレで排泄」を目標に「排泄チェック表」を活用し、排せつパターンを把握し失敗を極力減らすようタイミングよく声かけ誘導をこころがけている。排泄後の処理や清掃が行き届き、においもなく清潔な環境が保たれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	連絡ノートと排泄チェック表にて排泄の有無を確認し、看護師のバイタルチェック時に腹部の張りやグル音のチェックを経てのみ薬、座薬の挿肛や浣腸となる。食事前の嚥下体操の際、体をねじる等腸の運動を促す体操も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者の肌の状態や体調を見て入浴の間隔や時間を計画している。朝のバイタルチェックと本人への口頭での体調チェックを終えてから声掛けしてお風呂に誘っている。どうしても無理なときは利用者を翌日や落ち着いてから誘っている。男性職員の介助を嫌がる方には女性職員が対応している。	基本的に週3～4回の入浴を支援しているが、毎日入浴できる体制は整っており体調や希望に配慮している。また、拒否される利用者に対し声かけ、介護者や時間を変更するなど工夫し入浴を促している。肌の乾燥でかゆみが出ないように保湿剤を用いており、バスマットは個人用をもう一枚敷き、5つ指ソックスの活用など水虫予防対策もとっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設内の至る所にソファや椅子を設置している。利用者が一人でゆっくりしたり、少人数で語れる場所でもある。ホールの和室では布団を敷いて休むことができる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表をつけており、薬に変更などがあればその都度申し送りにて周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>職員が全部するのではなく、利用者にも手伝ってもらうことによって、今まで家でしてきた家事や畑仕事をここでも続けられるように配慮している。天気の良い日は散歩や野外レク、ドライブ等を楽しむ。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>家族の理解と協力を頂き、年に一回は少人数で好きな物を食べて好きなところに出かけられるように企画している。墓参り、や近所の店に外出することもある。</p>	<p>利用者の体調や天候を配慮しつつ、日常的に園庭にある東屋を利用したり、近接の商店に買物に出かけており、近隣の住民と会話を楽しんだり馴染みの関係も出来ている。生活に変化や楽しみの機会を多く持つため地域の運動会や花見、外食を兼ねてのドライブ、一時帰宅等、年間計画の中に組み入れて外出支援を行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者のお金は紛失の恐れがある場合は事務所金庫にて預かり、帰宅時に返している。買い物は職員が付き添って一緒に行くことができる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望があれば事務所からいつでも電話出来る。手紙などもお手伝いして出すことができる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に木のぬくもりを感じられるように木造となっている。トイレごとに大きさや仕様が違うので好きなトイレを利用できる。その時期や時間によって温湿度計や利用者の意見で室温をちょうせいしている。天気の良い日には換気を心がけている。季節折々の植物を散歩しながら摘んできて施設内に飾っている。	高台の広い敷地に平屋の施設と東屋や庭石、花壇等が配置され、眺望が素晴らしい。季節の花が植えてあり、広いウッドデッキは利用しやすい設計で日常的に日光浴やお茶飲み等、四季を感じながら団欒する場となっている。リビングはテーブルセット・テレビが設けてあり、廊下にはイスやソファが置かれ利用者が自由にくつろげるよう配慮されている。随所に生花や絵画折紙等の作品があり、なごやかな雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内の廊下にあるソファでは気の合う者同士が座って語らっている。利用者は小規模ホールに集まる事が多いが、和室や特定ホールに行くことで静かに過ごすことができる。宿泊部屋が空いていれば個室も使用可能。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも持ち歩いているバッグや小物を持ってこることができる。宿泊時にはラジオ、目ざまし時計、DVDプレイヤー等を持ってこることが可能。	泊りの部屋にはベッド、エアコン、ロッカーが設置してある。ホームの特性から大型の物の持ち込みはないが、使い慣れた時計・ラジオ・湯呑茶碗・毛布等を自由に持ち込んでいただいている。写真や創作品も自由に置かれており、本人の好みで落ち着いて過ごせる環境が出来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は基本的にバリアフリーとなっている。利用者によって見守りや最低限の介助にて自分で移動することが可能。トイレなどを大きく表示することによって利用者が見つけやすいように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない